

## 研究室配属実習報告（呼吸器内科）

医学科 4 年次の研究室配属の一環として、アメリカのペンシルベニア大学に 4 年生 1 名が平成 30 年 8 月 27 日から 9 月 28 日の約 1 ヶ月間短期留学しました。この留学は大分大学派遣留学支援制度（短期研修型）に採択され、実施されました。

約一ヶ月、肺の疾患について研究する留学であり、平日の午前 9 時から午後 5 時まで研究室で実験を実施しました。マウスの解剖、サンプル作製、染色、PCR、ウェスタンブロット等の手法を学び、今後研究をするための基本的な実験技術を身につけることができました。毎週火曜日には、研究進捗を共有するラボミーティングがあり、研究結果について活発な議論がされました。今回私は、母国語以外で議論する能力の向上と基本的な実験技術を体得することを目的として、この研究室に配属させていただきました。研究室では、人種、国籍、社会的背景、生活リズム、英語レベルの多様な研究者・技師がいる中で、研究という共通のテーマを各人が英語で議論し合う現場に参加させていただき、目的であった母国語以外で議論する能力の向上に向けた第一歩を踏み出せたと感じ、自信に繋がりました。帰国後の 10 月 11 日には大分大学内で研究発表を行い、広く研究成果と留学の成果について共有することができました。

大学の所在地であるフィラデルフィアはアメリカ東海岸にあり、留学当時は 9 月で気候が良く、過ごしやすい気温でした。フィラデルフィアはメガロポリスを構成する一都市でもあり、美術館、博物館が多数あり各種スポーツ観戦も可能で休日は楽しめます。またペンシルベニア大学は歴史のある大学であり、規模も大きく各種設備が充実していました。研究生活、休日の観光ともに非常に充実した留学となりました。

今回の研究室配属では、当初定めた目的を達成することができ、国内だけでなく、国外を見据えたコミュニケーション能力の向上に向け挑戦を続けていく気概が高まり、また医師になった後の進路を考えていく上での糧とする機会となりました。改めて深く感謝申し上げます。

左：筆者 右：教授

テクニシャンと。左前が筆者

